

平成28年度 第1回 神奈川県地方創生推進会議（平成28年10月25日）意見整理表

NO	委員名	意見	県の対応	担当局	二次評価
基本目標 1					
1	望月委員	中小企業の事業承継支援について、引継ぎと同時にその企業を守っていくという観点から、県のプロフェッショナル人材戦略拠点の相談件数や成約件数などをKPIに追加すると良い。	ご意見を踏まえ、KPIを追加する予定です。	産業労働局	概ね順調に進んでいます ・高齢者、女性、若年者及び障がい者の就業支援に、より一層取り組んでいく必要があります。 ・産業集積や成長産業の創出の促進が就業人口の増加に結びついていくか分析した上で、取組みを進める必要があります。 ・企業や学校などと協力し、中高生など若い世代に人工知能（AI）等ロボット技術に関する知識を広め、産業を支える人材の育成に取り組んでいく必要があります。
基本目標 2					
2	平位委員	数値目標「外国人旅行者の訪問者数（暦年）」について、2015年実績値が2019年目標値を既に超えているが、目標設定はこのままで良いのか。	1年目の評価であり、今後、実績値が変動する可能性があるため、現段階では目標値は現状維持とします。	産業労働局	概ね順調に進んでいます ・移住促進のPR動画や移住相談が実際の移住・定住につながっているのか分析した上で、継続的な支援を行っていく必要があります。
3	平位委員	「マグカル」という言葉はやはりピンとこないので、注釈をつけるなどわかりやすくしたほうが良い。	ご意見を踏まえ、評価報告書の記述を修正しました。	県民局	・ZEH設置数の増加に向けたより一層の取組みが必要です。 ・外国人観光客誘致に向け、多言語による情報発信や魅力的な観光ルートの開発などの取組みを一層進めていく必要があります。
4	平松委員	「三浦半島魅力最大化プロジェクトの推進」の中の「三浦半島における宿泊型観光の推進」について、人を呼び込む取組みだけでなく、受け入れ体制の整備も並行して取り組んでいく必要がある。	二次評価に反映しました。	政策局 産業労働局	・多くの県民にマグカルへの関心を持ってもらうため、効果的な手法でマグカルを取組みを広く発信する必要があります。 ・三浦半島の観光については、観光プロモーションと併せ、宿泊施設の整備促進や交通の利便性を高める取組みなど、受け入れ体制の充実を一層進めていく必要があります。
5	平松委員 平位委員	三浦半島の活性化には道路基盤や交通ネットワークの整備が欠かせない。基本目標1の小柱「観光産業の振興」の中に「観光振興に資する交通基盤などの整備」という記載はあるものの、「三浦半島魅力最大化プロジェクト」の中にも観光事業に付随する課題として明記する必要がある。	二次評価に反映しました。	政策局 産業労働局 県土整備局	

NO	委員名	意見	県の対応	担当局	二次評価
	基本目標 3				
6	秋山委員	保育所等入所待機児童数について、保育所に入所できなかったためにやむをえず育休をとっているケースを含めた数値のほうが実態に即している。横浜市では数値の見直しをしようという動きがあり、県も率先して取り組んでほしい。	二次評価に反映しました。	県民局	概ね順調に進んでいます ・多様な働き方の実現に向けて、在宅勤務の導入などをより一層促進していく必要があります。
7	齋藤委員	結婚支援の取組みとして「恋カナ！」サイトやツアーなどの取組みをしていただいているが、これらは一時的な出会いである。職場など、より自然な出会いの場、継続的な場を作るような取組みを指標化していけると良い。	二次評価に反映しました。	県民局	・結婚・妊娠・出産を支える社会環境の整備に向け、市町村とも連携し、引き続き取組みを進めていく必要があります。 ・出産・子育てしやすい社会を実現するため、女性の再就職やキャリアの継続を支援するさらなる取組みが必要で
8	齋藤委員	38ページにKPIとして「風しん予防接種者報告件数」が挙げられているが、この他にも結婚・育児の時期に健康であることを推進するような指標を入れられないか。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	保健福祉局	・男性の育児休業に関し、取得率の一層の向上や企業への普及啓発を図るため、さらなる取組みが必要で
9	齋藤委員	38ページの主な取組み「不妊治療に対する支援」に不妊治療に対する助成件数が記載されているが、本当は不妊治療は減ったほうが（必要ない人が増えたほうが）良い。「希望する人が減る」という表現や取組みができないか。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	保健福祉局	・待機児童対策の推進にあたっては、保育所に入所できなかったためにやむをえず育休を延長している等、保育所等入所待機児童数に含まれていないケースにも配慮しながら取組みを進めていく必要があります。
10	齋藤委員	結婚を希望する人が減っている中で、結婚・出産・育児にポジティブになれるよう、内閣府と厚生労働省、文部科学省で、小中学生、高校生が乳幼児とふれあう、子どものふれあい教育というものを考えている。こうした、家庭に対するイメージを作っていくような施策を指標化できると面白いし、評価も良いものになると思う。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	県民局 教育局	・結婚に向けた機運を更に高めていくために、自然な出会いの場づくりに向けた取組みが必要で
	基本目標 4				
11	室田委員	空き家問題でアウトカム指標を設定するのは難しい。積極的に取り組んでいる市町村の取組みを集約することで、数値目標を設定できないか。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	県土整備局	概ね順調に進んでいます ・県民が自らの住むまちの魅力を実感し、神奈川県に住み続けたいと思えるよう、一層の取組みが必要で
12	室田委員	空き家問題では、戸建ても問題だが、集合住宅がこれから大きな問題になってくるので、それについて、すぐに目標値として設定はできないかもしれないが、課題として考えていく必要がある。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	県土整備局	・市町村が定める空家等対策計画の作成支援と併せて、将来的な空家の増加を抑えるため、引き続きセミナーなどを通じて県民に対する情報提供・啓発を行うことが必要で
13	室田委員	空き家問題について、市町村の取組みを県として支援していくとともに、重要な担い手である市民団体（自治会も含む）に対する支援についても、課題として書き加えて欲しい。	二次評価に反映しました。	県土整備局	・空き家対策において、市町村と市民団体等との連携に対して支援していくことが必要で
14	室田委員	今後、公共交通ではない、コミュニティバスや住民の相互扶助による交通ネットワークが重要になってくる。相互扶助的な交通ネットワークについては市町村も支援しているところは多くないので、安心安全なまちづくり、日常生活の利便性の向上という点からも、県としても記述に加えて欲しい。	二次評価に反映しました。	県土整備局	・交通ネットワークについて、市町村等の取組みを引き続き支援していくことが必要で
15	室田委員	「持続可能な魅力あるまちづくり」について、市町村ではいろいろな形で魅力あるまちづくりに取り組んでいる。そうした取組みを吸い上げて、目標として設定していただけないか。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	県土整備局	

NO	委員名	意見	県の対応	担当局	二次評価
	共通				
16	富田委員	「目標設定の妥当性に疑問を感じる」という県議会の意見には違和感がある。「神奈川県地方創生推進会議の評価(案)」にも「必ずしも十分な指標が示されていない」という記述があるが、自己否定にも感じられる表現であり、より適切な表現を検討して欲しい。	ご意見を踏まえ、「神奈川県地方創生推進会議の評価」を修正しました。	総合政策課	/
17	平井委員	総合戦略の取組みの評価や進捗状況について、「2つの課題」「3つのビジョン」「4つの基本目標」という体系全体を俯瞰した中で見えるようにする必要がある。	ご意見については進行管理等の課題として今後の参考とさせていただきます。		
18	平井委員	ビジョン1「合計特殊出生率の向上」について、総合戦略によってその数値がどう推移したのかということを明示したほうが良い。「2つの課題」のひとつである「人口減少に歯止めをかける」という観点からも、人口動態をもう少し詳細に把握し、データを可視化していくことが必要ではないか。	ご意見については進行管理等の課題として今後の参考とさせていただきます。		
19	平井委員	ビジョン3「『未病』の取組みによる健康長寿社会の実現」について、どれだけ元気な高齢者が増えているか等の指標化は難しいが、検討していく必要がある。	ご意見については進行管理等の課題として今後の参考とさせていただきます。	保健福祉局 (総合政策課)	
20	平井委員	4つの基本目標が、全体として人口減少に歯止めをかけるという課題にどう結びついたか、検証する必要がある。	ご意見については進行管理等の課題として今後の参考とさせていただきます。	総合政策課	
21	平井委員	KPIの追加や上乘せ、あるいは視点として足りない部分をどう補っていけば、全体として正しい評価を得られるようなものになるか、推進会議の課題として引き続き議論していく必要がある。	ご意見については進行管理等の課題として今後の参考とさせていただきます。		
22	室田委員	基本目標4の数値目標(県民ニーズ調査の「神奈川県に住み続けたいと思う人の割合」「日常生活のための交通の便がよい」についての結果)や、KPI「消防団の団員数」など、地域によって違いが生じるものであり、県域全体で見ていることで課題を見えにくくしていると思われる。本来は地域によって目標は違うと思われ、地域によって違いが生じるような取組み・目標については、地域ごとに区分して数値を出したほうが良い。	ご意見については進行管理等の課題として今後の参考とさせていただきます。	総合政策課 (県土・安防)	